

編集後記

『哲学の探求』は今号で42回目の発行となりますが、今年度より電子媒体での発行がスタートしました。近年、大変ありがたいことに、フォーラムでの発表希望者が増加傾向にあり、それに伴い、『探求』の執筆希望者も昨年度より大幅に増加しました。そのため、編集に助手を付けようということで、『探求』会計担当である私がお手伝いをさせていただくことになりました。昨年度は『探求』販売を担当しており、今年度は『探求』会計を(望んで)担当している私は、前総務の高江さん曰く「『探求』に愛着がある」のだそうです。そんな私が、また別の形で『探求』に関わることができたのは、大変嬉しいことでした。

そうは言っても、初めはきちんと仕事がこなせるか不安でした。しかし、編集の槇野さんのサポートと世話人会の助力によって、何とか仕事をこなすことができました。また、原稿の増加に伴い、従来世話人で行っている校正作業を今回は外部の方にもお願いすることになりましたが、毎回丁寧なコメントを付けてくださり、感動しきりでした。

多くの方々に支えられ、無事に仕事を終えることができ、今はホッとしています。お忙しい中寄稿してくださった、江口先生、近藤先生、各著者の方々、校正作業を手伝ってくださった編集協力者の方々、本誌を発行するまでに関わって下さったすべての方にこの場を借りてお礼申し上げます。

『哲学の探求』編集助手（『哲学の探求』会計）山崎 紗紀子

『哲学の探求』は本号から電子媒体で発行されることになりました。これにより多くの方に所収論文を読んでいただける機会が増えるのではないかと、私は想像しております。もしこの想像が実現するならば、編集担当としてこれ以上に喜ぶべきものではありません。

この編集作業に対する個人的な感想を少しだけ書かせてください。編集作業は、噂に聞くほど大変なものではありませんでした。その理由はもちろん、多くの方に協力していただいたからです。しかしそれだけではなく、不思議なことに私は当初から、成功に終わるという直観をもっていました。その直観に導かれて、私は淡々と作業をしていただけであり、そのため、反省点こそあれ、困難に見舞われなかったのだと思います。

42号発行のためにお力を貸して下さった沢山の方にお礼申し上げます。協力的だった著者の皆様をはじめとして、編集協力者の皆様、元・世話人の皆様、どうもありがとうございました。

『哲学の探求』編集 榎野 沙央理